



五百羅漢のみち

2.8km

遠野市

JR釜石線遠野駅

はじめに

本コースは遠野市街地の南側の山地に点在する名所を周遊します。コースの距離は短いですが神社などの参道は長々と階段が続くので健脚向きかも知れません。市立博物館は遠野物語の背景を知るのに役立ちました。(調査日 2002年4月28日, 6月1日)

交通アクセス

起点の卯子酉様, 終点の市立博物館ともJR遠野駅から徒歩がよい。

コース案内板の内容

五百羅漢のみち

このコースは, 起点卯子酉様から愛宕神社, 五百羅漢, 程洞コンセイサマ, 鍋倉城址や, なべくら展望台がある鍋倉公園を経て, 終点市立博物館に至る全長2.8kmの石碑や歴史を知ることができる自然歩道です。

鍋倉城址は中世の典型的な山城でした。現在は鍋倉公園として市民の憩いの場に活用されています。三の丸には市街地が一望できる「なべくら展望台」があります。また, 市立博物館は「遠野の自然と暮し」「遠野物語の世界」「遠野の民俗」に触れることができます。約2時間の散策路です。

(起点) 卯子酉様 0.4km 五百羅漢 0.7 km 程洞コンセイサマ 1.2 km 鍋倉公園 0.5 km 市立博物館(終点)(計2.8km)

1. 卯子酉様(遠野物語拾遺三五)

JR遠野駅前の交差点で西に向かい突き当たりの丁字路で左折。大工町の通りを南へ進む。合同庁舎を過ぎると城下町の升形の名残で右折左折が連続する。車道の両側の住宅が途切れると早池峰バスの営業所, さらに進むと車道の南側に面して駐車場とトイレの



写真1 卯子酉様

ある小公園がある。五百羅漢入口という看板があるのでわかりやすい。ここが東北自然歩道・五百羅漢のみちの起点で公園内に地図入りの案内板が立っている。尚, 近くの猿ヶ石川に架かる愛宕橋は東北自然歩道・遠野物語のみち(2)の起点になっている。

公園の西南角に鳥居と小さな神社がある。これが卯子酉様である。境内に張られているロープにびっしりと赤い布切れが結ばれている。卯子酉様は縁結びの神で赤布に願い事を書きそれを片手で結ぶと願いが叶うという。本殿に赤布が置かれていて1枚100円。管理人はいないので自主的にお金を箱の中に入れることになっている。小生は今の所縁結びの願い事は無いので替わりにおみくじを買った。

遠野物語によると「昔, この近くに猿ヶ石川が流れていた頃, この場所に大きな淵があった。淵の主は願いをかけると男女の縁が結ばれた。小川にある片葉の葦は, 願いが叶わなかった娘である。」とのこと。

2. 愛宕神社(遠野物語拾遺六四)

起点の公園の西側に愛宕神社に上る参道がある。ぼんぼりが並ぶ石段を上る。途中の石碑には月見坂と記されている。頂上に本殿がある。周囲が林で囲



写真2 愛宕神社

まれているので展望はない。火防の神として信仰されている。

3. 五百羅漢

愛宕神社から引き返し参道入口から南に向かう坂道を上り始める。道は舗装されているが幅が狭く車は通行できない。10分程歩くと前方に東屋が見える。ここが五百羅漢の入口である。車道を横断し林の中に入って行く。たくさんの大岩が斜面に転がっていてよく見るとその一つ一つに文字や人物の顔が彫られている。岩場の斜面を上り詰めると最後に賽銭箱が置かれてあった。その下に流れる清水は飲めるようだ。

五百羅漢は大慈寺の義山和尚が明和2年(1765)から2年がかりで彫った。宝暦5,6年(1755,6)の凶作による大飢饉がありその供養のためとのこと。

賽銭箱からさらに上に行くと右手に秋葉山70mと書かれた道標が立っていた。その先に進んでみると小祠がありここが秋葉山と思われる。さらにその先に送電線の鉄塔がありこの場所から遠野盆地が一望できる。



写真3 五百羅漢

4. 程洞稻荷

しばらく車道(林道)を歩く。この林道は麓の九重沢集落から土室峠を越え国道107号に至る道である。九重沢の林道案内図によると物見山・貞任山へのアクセス道でもある。

車道の右手に赤い鳥居が立っていてここから階段を上っていく。鬱蒼とした杉林の中で狐に化かされてもおかしくない雰囲気である。階段は長く次第に息が切れてくる。やっと本殿が見えてきた。冷水が流れていて湯いたのどを潤すにはちょうどよい。祭神は倉稲魂命。子宝祈願, 腰痛, 婦人病に利益があるとのこと。本殿の向かい側に数本の CONSEISAMA が祀られている堂がある。堂の柱に「祈願成就の際は CONSEISAMA を祀ってください」とある。いなり寿司が供えてあった。



写真4 程洞 CONSEISAMA

5. 鍋倉公園

林道をさらに東に進むと十字路がありそこに自然歩道の道標が立っている。左折が鍋倉公園, 直進が九重沢と記されている。最初, 九重沢という美しい沢が近くにあると思って直進したがそれらしき沢は見当たらない。とうとう林道の入口まで下ってきってしまった。結局, 九重沢とは林道の入口にある集落の名前である事を知り再び十字路まで引き返した。

十字路から鍋倉公園に向かう。すぐ遠野高校への道が左に分岐する。堀や馬場跡などの案内板があり一帯は城跡公園として整備されているようだ。花見の行楽客でにぎやかである。展望台の周囲が最も人出があり宴会で盛り上がっている。展望台に上ると直下の市街地から遠くの早池峰山まで見渡すことができ本コースの中では最高の展望であった。テープで名所の場所とその解説が流れるので旅行客にはあ



写真5 鍋倉城本丸跡

りがたい。展望台よりさらに高い所にある本丸跡にも立ち寄ってみた。建物は既に焼失したらしく一面草原であった。

6. 市立博物館

鍋倉公園から階段をジグザグに下ると八幡神社に着く。本殿の右を通る車道に自然歩道の地図入り案内板が立っている。市立博物館は八幡神社の石段を下りすぐ右手のレンガ色の建物である。博物館は2階の入口から入る。1階は市立図書館となっている。入館料¥520（遠野市立博物館・遠野城下町資料館・とおの昔話村3施設共通券）。

中に入ると最初に民話のミニシアターがある。小生が見たのは川の娘の話。ここでしばらくベンチに座って休憩した。遠野の自然・動植物、産業・金山、歴史民俗・祭り、民話ビデオなどが展示されていた。

市立博物館から遠野駅方面に進む。ハヤが泳ぐ来

内川に架かる橋を渡ってすぐ左折で、とおの昔話村に着く。柳翁宿(旧高善旅館)の玄関から入る。奥の座敷で語り部が団体客に囲まれ昔話をしているのが聞こえた。ちょうどいい機会なので小生も縁側に腰掛け、話(部屋の起源, こんにやくと豆腐2題)を聞いた。語り部の女性は全国各地で講演しているとの事。汽車の時間の都合で柳翁宿の中をゆっくり見学できなかったのが悔やまれる。隣接する物語蔵では遠野物語の主立った話を映像で展示している。柳翁宿の裏に柳田国男隠居所(東京世田谷区から移築)がある。

とおの昔話村の反対側の入口(北側駐車場)から出る。正面にある遠野物産館の奥に遠野城下町資料館がある。藩政時代の衣服、装飾品、刀などが展示されている。

参考文献

1. 遠野マップ 遠野市観光協会 市街地から郊外まで観光地を網羅。遠野観光の必需品。
2. 駅からハイキング・民話のふるさと・遠野路五百羅漢散策コース 遠野駅で入手。自然歩道と全く同一コースをたどる。
3. 遠野物語 柳田国男(新潮文庫)
4. 遠野物語・付遠野物語拾遺 柳田国男(角川文庫)
5. 遠野市立博物館パンフレット
6. 遠野殺人事件 内田康夫(光文社文庫)五百羅漢を舞台とした推理小説



図1 コース略図
(起点) 卯子西様 0.4km 五百羅漢 0.7 km 程
洞コンセイサマ 1.2 km 鍋倉公園 0.5 km 市
立博物館(終点)